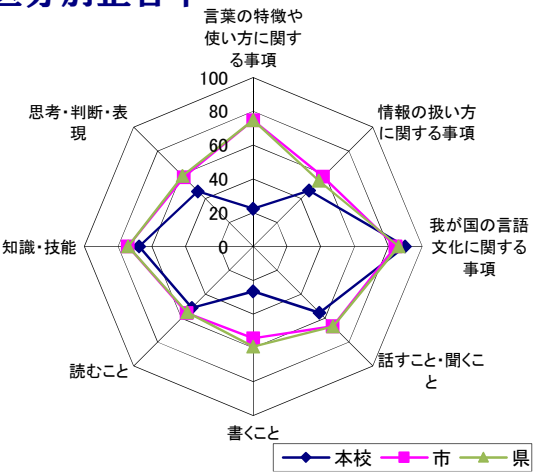


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	22.3	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	46.8	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	89.9	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	55.5	66.7	66.9
	書くこと	26.6	54.3	59.3
	読むこと	51.4	55.6	55.2
観点	知識・技能	67.5	74.1	74.0
	思考・判断・表現	46.2	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○第3学年に配当されている漢字を正しく読む問題の正答率は90%前後で、県の正答率とほぼ同じである。 ●第3学年に配当されている漢字を正しく書く問題の正答率は、県の正答率を大きく下回った。「短い」という漢字では県の正答率を16ポイント下回った。	・漢字を正しく書く力が不十分であると考えられることから、書き順を含め、進出漢字を正しく身に付けられるようにしたい。どのような熟語に使われているのか確認しながら適切に練習できるようにしていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ●国語辞典の使い方を理解し、正しく使うことができるかをみる問題の正答率は46.8%で、県の正答率を8.2ポイント下回った。	・授業の中で辞典を使う機会を増やし、正しい使い方を身に付けさせたい。日常生活でも進んで使う習慣をつけさせていきたい。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べ高い。 ○漢字のへんやつくりを理解していることに関する問題の正答率は89.9%で、県の正答率より3.8ポイント上回った。	・漢字の学習において、漢字を正しく書くことと同時に読みや熟語、その漢字のへんやつくりにも目を向けられるよう国語の授業で取り上げたり、家庭学習での漢字練習の取り組み方を工夫できるような例を示したりしていきたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は85.3%で、県の正答率にあと1.9ポイントと近かった。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことに関する問題の正答率は54.1%で、県の正答率を20.3ポイント下回った。	・理由をくわしく説明しながら自分の意見を示すことが苦手な児童が多い。どうしてそのような意見になったのか、自分の思いを見つめて振り返る時間を設ける。また、その時に気付いたことを書き上げて整理する方法を指導することで、理由の大切さに気付かせ、自分の意見を示す力を高めさせていきたい。
書くこと	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ●指定された文字数で文章を書く問題の正答率は21.1%で、県の正答率を34.6ポイント下回った。	・文字数を指定されてもそれに合わせて書いていない児童が多いことから、まずは、基本的なルールを理解させたい。その上で、文章を長く書くことが苦手な児童には結論を意識させて文章量を増やす工夫を、文章を短く書くことが苦手な児童には要点を抜き出し文章をまとめる工夫を指導し、指定されたことに合わせる経験を積ませていく。
読むこと	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えることができるかを見る問題の正答率は50.5%で、県の正答率を0.9ポイント上回った。 ●叙述を基に文と文のつながりを捉えることができるかに関する問題の正答率は30.3%で、県の正答率を10ポイント下回った。	・国語の授業の読み取りでは、発問に関係のあるところと線を引き、発問と同じ言葉に線を引き近くの文章を読み返すなど、関係のある文章を探す方法を指導し、個人で取り組む力を高めていけるようにする。